

スロイド教科の現状とその歴史(1)

名古屋大学教育発達科学研究科

横山 悦生

1. はじめに

筆者は、2003年8月より約1年間、スウェーデンのストックホルム教育大学に客員研究員として滞在している。長期にわたる滞在としては2度目であり、前回はスウェーデンのリンショーピン大学のスロイド教員養成所に8ヶ月間滞在した(1997年8月～1998年3月)。一度目の滞在でのメイン・テーマは北欧におけるスロイド教育が日本の手工科にどのような影響を与えたのかを解明することであり、その成果の一部は、拙稿「手工科成立過程期における日本とスウェーデンとの教育交流—手工科に与えたスロイドの影響の再評価—」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(教育科学)』第50巻第2号(2004年3月)として発表した。この論文では、明治期の手工科に対するスウェーデンのスロイドの影響を教育交流の面から解明し、スロイドの影響が少なくなかったことを論じている。今回の滞在でのメイン・テーマはスウェーデンにおけるスロイド教育の成立過程の歴史的研究であり、本稿ではその成果の一部を紹介したい。

2. スウェーデンのスロイド教科の現状

本誌の性格を考慮して、最初にスウェーデンのスロイド教科の現状を紹介しておく。現在の学校ではスロイドの授業は、第3学年から第7学年まで木や金属などの固い材料を扱う木工・金工スロイドと布などの柔らかい材料を扱うテキスタイル・スロイドの2種類の実施されている¹⁾。これらの学年では、クラスを半分に分け(半学級)、生徒は前期と後期で両方の授業を交代して受ける。したがって、スロイド担当教師(現在ではテキスタイル・スロイドと木工・金工スロイドの2種類の専科教員)は15名をこえて授業をおこなうことはない。さらに第8学年と第9学年では、木工・金工スロイドとテキスタイル・

スロイドのどちらかを生徒が選択して学習する。したがって、スロイドは第3学年から第9学年まで必修教科としておかれ、第8学年と第9学年だけが教科内選択という形態になっている²⁾。筆者は、2003年10月からストックホルム郊外にあるテービイ(Taby)という町にあるネースビーダール中学校(Nasbydal skolan)に毎週月曜日の午前に行われているスロイドの授業を見学してきたが、そこでの授業内容や実習材料や道具・設備などは日本と比較してかなり充実しており、生徒はもの



写真1 テキスタイル・スロイドの授業の様子(ウメオ市郊外の小学校)

をつくることを通してスウェーデンの伝統的な手工(Hantverk,Hemslojd)の文化を学んでいるという印象を受けた。筆者が2004年2月に訪問したウメオ市郊外の学校のスロイドの授業の様子やストックホルム教育大学のスロイドの実習の様子を撮影した写真を以下に掲げておく。

現在のスウェーデンの「指導計画と評価基準(kursplaner och betygskriteier) 2000」(日本の学習指導要領に相当する)では、スロイド教科の目的は次のように規定されている。

「教科スロイドは生徒の創造的(skapande)能力、手工的(manuella)能力、コミュニケーションの能力の錬磨を通じて生徒の全面发展に寄与する。

スロイド教科は手作

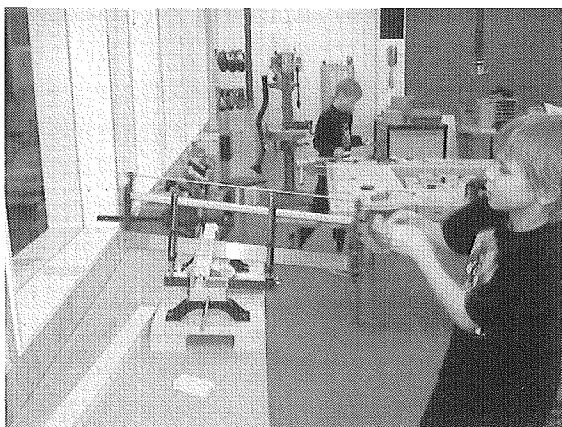


写真2 木工・金工・スロイドの授業の様子(同上小学校)



写真3 スロイドの授業の様子(ストックホルム教育大学)

業(manuellt arbete)と知的作業を統一的に包含しており、創造性、好奇心、責任感、自立性、問題解決能力を発達させる。それは、アイデアに始まり、完成したモノにいたるプロセス(スロイドプロセス)に表現される。テキスタイル、木工・金工スロイドは、生徒が彼ら自身の能力への信頼を強化し、

日常生活での問題に対処するための準備を与える知識を発達させることである。

デザインと機能を評価し、判断することは、日常生活において頻繁に必要とされる。スロイドの教育は美的(estetiska)価値についての意識を創り出すこと、材料の選択や加工、設計がいかにかに製作物の機能と耐久性に影響を及ぼすかについての理解を発達させることを目的としている。スロイドの教育のなかで、環境問題や安全問題に関する知識を与えたり、資源を節約することの重要性に関する意識を涵養することも目的としている。

スロイド教科は、新しい思考や新しい創造のための基礎をすえることになろう。この教育は、過去と現在のスロイドの伝統に関する知識を通して、生活史や平等問題への見識を与えることになろう。スロイド教科は、より広い視点から多様な文化の手工(hantverk)の伝統に関する自覚を創造することも目的としている。」³⁾

この目的規定には、スウェーデンのスロイド教科の120年以上に及ぶ歴史が反映しているように思われる。スロイド教育の歴史にも造詣の深いスペン・ハルトマン氏(ストックホルム教育大学教授・専門は教育学)は、スロイド担当教員にもとめられた能力の変遷を4つの段階に分け⁴⁾、「1960年代以降のスロイド教科は創造的活動にねらいをおき、その目的は生徒が作業する材料を使って個性的な表現を見いだすように刺激することにある」としたうえで、「しかし、伝統は現在も生きていることが示されてきた。これまでもしばしばそうであったように、教育学的な文脈において新しい方法は古い方法に置き換えられるのではなくて、むしろ新しい方法が古い方法に付け加えられるのである。」と述べている。1960年代以降のスロイド教科は「創造的活動」にねらいをおい

ているという点では、1880年代から1950年代までスロイドの授業に大きな影響力を及ぼした、オットー・サロモンの考え方からは異なっている。それにもかかわらず、サロモンの教育遺産は確かに受け継がれているように思われる。

1960年代以降は、スロイドは芸術的諸教科 (estetiska ämnen) の1つと考えられており、スウェーデンではその考え方が定着してきた。北欧5ヶ国では手工科の伝統が比較的長期にわたって維持されてきたと考えられるが⁵⁾、近年 "Technology Education for all" の動きがこの教科のあり方を大きく揺さぶることになった。その結果、北欧各国の中でこの教科のあり方が大きく異なってきた⁶⁾。たとえば、フィンランドでは伝統的に長く手工科が存続してきたが、その手工科のなかにテクニカル・ワークとテキスタイル・ワークの2種類の内容がおかれており、この点ではスウェーデンと同じである。ただ、テクニカル・ワークの内容には、木工や金工だけではなく、電気や機械の領域、情報技術の領域なども含んでおり、この点がスウェーデンとは大きく異なっている⁷⁾。スウェーデンでは、1982年のカリキュラム改革で、スロイドとは別に「技術科 (Teknik)」という科目が必修領域として (自然科学科目群の中に) 新設された。スロイドをテクニクに変更しようとする動きに対して、スロイド教育関係者の多くはスロイドの伝統的な性格を維持させ、テクニクとは別の教科として存続させることに成功した⁸⁾。

スロイドの目的

3. スロイド教科の成立—1878年の「民衆学校の教授プラン」と法規定

では、スウェーデンにおいてなぜスロイド教科が学校教育のカリキュラムの中に登場するようになったのか。法令上、世界で最初にスロイド (手工) を普通教育のカリキュラムの中に導入したのは、フィンランドで、1866年のことであった⁹⁾。スウェーデンは、法令上は2番目であり、それは1878年に発表された「民衆学校の教授プラン」 ("Normalplan för undervisningen i folkskolor och smaskolor") にみることができる。表1に教科ごとの時間数の一覧表を掲げるが、スロイドは国民学校 (4年制、9歳～12歳) の選択教科として、位置づけられていた (実際には午後や放課後に実施されることが多かったようである)。また、この教科を設置するかどうかはコミューン (地方自治体) や教区によって決められた。このような選択教科としての位置づけは、1955年まで続いた。1878年の「民衆学校の教授プラン」には、スロイドを設置する場合とそれを設置しない場合の例が掲載されているが、その中の「国民学校」第3学年と第4学年のものを表2と表3に掲げておく。

表1 1878年の「教授プラン」における教科時間数

	スロイドを設置 しない場合	スロイドを設置 する場合
宗教(Kristendoms-kunskap)	4	4
母国語(Modersmålet)	10	8
算数と幾何(Räkning och Geometri)	5	4
図学(Teckning)	5	4
歴史(Historia)	2	2
自然(Naturkunnighet)	4	3
スロイド(Slöjd)	—	5
合計時間数	30	30

先の1878年の"Normalplan for undervisningen i folkskolor och smaskolor"では、スロイド教科の目的として「スロイドの教育に際しては、男子生徒に普通に（家庭に）存在する道具、とりわけ木工道具、もし旋盤や彫刻や鍛冶などの道具があるならば、そのような道具を使用することをまず教えること、その際に農民にとって特に必要な対象物が製作されるべきである。女子生徒に対するスロイドの教育の目的は、まず第一に単純な肌着縫い・衣服縫いと編み物がとりあげられるべきである。さらにそれには、糸紡ぎや機織り、編み細工も適切

表2 スロイドを設置していない学校の時間割（第3、4学年）

Läro-timmar	Måndag		Tisdag		Onsdag		Torsdag		Fredag		Lördag	
	3:e Års-klassen	4:e Års-klassen	3:e Års-klassen	4:e Års-klassen	3:e Års-klassen	4:e Års-klassen	3:e Års-klassen	4:e Års-klassen	3:e Års-klassen	4:e Års-klassen	3:e Års-klassen	4:e Års-klassen
1:a timmen	Katekes		Bibisk historia		Katekes		Bibisk historia		Skrifning (välskrifning)	Katekes	Räkning	Geograf
2:a timmen	Läsning		Skrifning		Naturkunnighet	Skrifning	Teckning		Naturkunnighet	Skrifning (välskrifning)	Läsning	
3:e timmen	Geografi	Teckning	Svensk historia		Teckning	Naturkunnighet	Geografi	Räkning	Svensk historia		Skrifning	Naturkunnighet
4:e timmen	Räkning		Räkning	Gossar: Geometri Pliëkor: Räkning			Skrifning	Gossar: Geometri Pliëkor: Skrifning	Räkning			
5:e timmen	Sång		2:a half- 1:a kvart- timmen	Läsning (kursiv)			2:a half- 1:a kvart- timmen	Läsning (kursiv)			Läsning (kursiv)	
			2:a half- 1:a kvart- timmen	Sång			2:a half- 1:a kvart- timmen	Sång				

表3 スロイドを設置した学校の時間割(第3、4学年)

Läro- timmar	Måndag		Tisdag		Onsdag		Torsdag		Fredag		Lördag		
	3:e Års- klassen	4:e Års- klassen	3:e Års- klassen	4:e Års- klassen	3:e Års- klassen	4:e Års- klassen	3:e Års- klassen	4:e Års- klassen	3:e Års- klassen	4:e Års- klassen	3:e Års- klassen	4:e Års- klassen	
1:a timmen	Katekes		Biblik historia		Katekes		Biblik historia		Skrifning (välskrif- ning)		Katekes	Räkning	Geografi
2:a timmen	Läsning		Skrifning		Natur- kunnighet	Skrifning	Teckning		Natur- kunnighet	Skrifning (välskrif- ning)		Läsning	
3:e timmen	Geografi	Teckning	Svensk historia		Teckning	Natur- kunnighet	Geografi	Räkning	Svensk historia		Skrifning	Natur- kunnig- het	
4:e timmen	Räkning		2:a kaf- /3:a kaf- /4:a kaf- timmen	Läsning (kursiv)	Räkning		2:a kaf- /3:a kaf- /4:a kaf- timmen	Läsning (kursiv)	Läsning (kursiv)		Sång		
				Sång				Sång					
5:e timmen	Gossar: Slöjd	Gossar: Geometri Pliokor: Slöjd	Pliokor: Slöjd	Gossar: Slöjd		Gossar: Slöjd Pliokor: Slöjd	Gossar: Slöjd	Gossar: Geometri Pliokor: Slöjd	Pliokor: Slöjd	Gossar: Slöjd			
6:e timmen	Gossar: Slöjd	Pliokor: Slöjd	Pliokor: Slöjd	Gossar: Slöjd		Gossar: Slöjd Pliokor: Slöjd	Gossar: Slöjd	Pliokor: Slöjd	Pliokor: Slöjd	Gossar: Slöjd			

な範囲で含むことができる。」と書かれている。ここでは、男子生徒のためのスロイドは農民の日常生活にとって必要な技能を教えることが目的とされていたことがわかる。女子生徒のためのスロイドは、女性の日常生活に必要な技能を教えることを目的としていた。

(次号に続く)

注

- 1) 1994年のカリキュラム改訂から学校にカリキュラム編成権が委譲され、到達目標への達成状況を各コミュニケーションが管理するようになったので、実際には各教科の年間時間数をどのように配分するかは学校によって異なっている。スロイドに配分される総時間数は第1学年から第9学年までで330時間である。同様に Hemkunskap(家庭科)には118時間、美術には230時間、音楽には230時間が当てられている(1時間は60分で計算される)。なお、到達目標の達成状況は、スウェーデン語、英語、数学(この3つは核教科(karnamnet)と呼ばれる)については国家試験(National prov)によって、全国統一的に管理されるが、他の教科は教師による目標準拠評価によって管理される(第5学年と第9学年の到達目標だけが設定されているので、それに対応して評価される)。
- 2) ただし、実態は学校によって異なっており、第8学年と第9学年においても授業時間を110分に設定し、前期と後期で交代してテキスタイル・スロイドと木工・金工スロイドを全生徒に履修させる学校もある。多くの学校では授業時間を80分に

設定し、1年間と通じてテキスタイル・スロイドか木工・金工スロイドのどちらかを履修させているようである。いずれの場合も生徒に配布される成績表 (betyg) ではスロイドという一つの教科の成績がつけられる。

- 3) Skolverket "Grundskolan kursplaner och betygskriteier 2000" p.91,2000
- 4) Sven Hartman "Larares kunskap" p.104~p.105, 1995 同氏はその著書において、スロイド担当教員にもとめられる能力の変遷を①1860年前後の数十年間 ②1880年代以降 ③1930年代以降 ④1960年代以降 に大きく区分している。とりわけ、②の1880年頃から1930年頃にかけての時期を「スウェーデンの学校スロイドのクライマックスにあたる」とし、その時期には「スロイドを教えることが子どもの性格形成にとって有用であるとみなされ、国民学校教員がスロイドを教えることをのぞんだ」。さらに③の1930年以降の時期は「学校のスロイド教授において優れた技能に強調点がおかれ、スロイド専科教員が再び増え始めた」としている。これらの指摘は、今後さらに検討される必要があるが、筆者が実施した1958年からスロイド担当教員になったHarry Arvidsson氏 (元ストックホルム市視学官 (スロイド担当)) に対する聞き取り調査で明らかになったことは、「1950年代半ばに国民学校教員組合との合意で、学校教員の子どもと一緒にいる時間数を減らすためにスロイドを専科教員に任せることになった」という事実である。この事実と1962年からの学校制度改革 (単線型学校制度の成立) とスロイド教員養成制度改革 (ネースからリンショーピンへの養成施設の移転も含む) がともにスロイド教科の担当教員や教科の性格に大きな影響を与えたのではないかと考えられる。
- 5) ここで「手工科の伝統」とは木工を中心とした工作教育の伝統と言いかえることができる。このような伝統は北欧に特異なものではないかと思われる。たとえば、イングランドでは、1990年代にはCDTはDTと教科名が変更され、クラフト (工作) 教育の割合が大幅に削減された。日本でも戦前の手工科の伝統は基本的には戦後に消滅したと考えられる。
- 6) なかでも、アイスランドの手工科の動向が注目される。これについては拙稿「アイスランドにおけるTechnology Educationの最近の動向について」『技術教育研究』第52号 (1998) を参照されたい。
- 7) テクニークについては、1982年の「教授計画 (Laroplan)」において自然科学科目群の1科目として必修時間が設定された。また、1994年の「教授計画 (kursplaner)」で独立教科とされたものの、実態としては教科として十分に確立したとはいえないように思われる。詳しくは拙稿「第9章 諸外国における技術科教育の現状 6. スウェーデン」(CD-ROM版技術科教育実践講座刊行会『CD-

ROM版 技術科教育実践講座 理論編1 Vol.1 工夫し創造する力をはぐくむ「カリキュラムと学習指導・評価」』p.335-p.340, 2002年6月、ニチブン)を参照されたい。

- 8) 詳しくは、横山悦生・丸山佐和子・丸井美穂子訳「フィンランドの普通教育における技術科教育」『技術・職業教育学研究室 研究報告』創刊号、p.48-p.68、2003年8月を参照のこと
- 9) 拙稿「『教育的スロイド』の成立をめぐる」技術教育研究会『技術と教育』第362号、p.11～p.13, 2004年2月

BOOK

『フランス語で広がる世界』立花英裕・井上たか子監修 日本フランス語教育学会編
(A5判 234頁 本体1,500円(定価) 駿河台出版社)



フランス語をきっかけに、自分の生きる道を見つけた人々の楽しいお話。フランス語が扱ってくれる芸術、文化、ファッションなどフランスの魅力と特色を123人からのエッセー?で埋め尽くした本。学問の世界あり、ワインやフランス料理の世界あり、映画や音楽の世界あり、文学、パイヤー、翻訳者、NPO、外交官などフランス語でオシャレな世界に浸るだけでなく実用的な世界にもアクセスできる良いガイドとなる本である。
(沼口 博)

BOOK

『仕事を学ぶ』田中萬年編著 鈴木建夫校閲
(A5判 236頁 本体1,500円(定価) 実戦教育訓練研究協会)

全国にあるカレッジ(職業能力開発大学校および短期大学の総称)に入学してきた若者達への入門ガイドダンス書。テクニシャンとして必要とされる教育や訓練について分かりやすく解説すると共に、テクニシャンが必要とされている訳や職業や働くことの意味について易しく説明してある。

企業内教育の歴史やわが国の最近の職業世界の変化についても解説してあり、広く若者の職業に関する案内書となっている。
(沼口 博)

